

教師の教職観に関する研究

村 瀬 隆 二 岩 井 勇 児

I 問 題

われわれは、「指導者と被指導者との人間関係に関する教育心理学的研究——特に指導者養成の観点から——」というテーマのうち、副題のほうに重きをおいて、教育現場における指導者、すなわち、教師の問題を扱ってきた。教師養成の問題を考えていくときに、現場教師の教育活動が十分になされるためには、教師養成過程において検討すべき問題は何か、ということが問題になる。現場教師の教育活動が十分になされるためには、教師養成の過程において検討すべき問題だけではなく、教職経験を積み重ねていく過程において、また、教育現場そのものにおいて、あるいは、もっと広く社会全体として検討すべき問題もあると考えられる。そこで、われわれは、教師の教育活動を支えている教師職の本質的な特質を把握し、そのなかで、教師養成の問題を考えていきたいと思うのである。

われわれは、昨年度において、現場教師と親しく懇談する機会をもち、教師生活の多方面にわたる具体的な問題について、現場教師の陳述を得た。その際に得られた記録を分類整理して、「教師の生活意識——教師研究の基礎資料——」と題して、別に報告した。それは、子どもの指導の問題から、教師の個人的な生活の問題にいたるまで、現場教師が、われわれに語ってくれたことの記録である。

この記録を読んでいくと、いろいろな問題について現場教師が述べていることの中に、教師が教師という職業をどうみているか、すなわち、教師の教職観というべきものがよく表わされているように思われる。そして、この教師の教職観を検討していくことによって、教師職の特質をとらえていくことができると思うのである。

しかしながら、昨年度の面接調査で得られた資料は、前報告でも述べたように、サンプルとしての偏りがあるだろうし、一部の教師の個人的なことがらも含まれていると思われるので、それらの資料が、どの程度、一般化して考えてよいものかの検証がまだなされていないわけである。

そこで、この研究の当面の目標は、面接調査で得られた資料から考えられる教師の教職観が、一般的なものであるかどうかを検討することである。すなわち、まえの面接調査で得られた教師の陳述のなかから、教師の教職観を適切に表現しているものや、それを手がかりにして教師の教職観をとらえることができるものをとりだして、それが、われわれの面接した教師だけの特殊な経験や考えから出されたものであるか、多くの教師も同じように考えているのかを検討しておこうとするものである。

II 方 法

1) 調査用紙の作成

われわれは上述の目標のもとに、大きくわけて2種類の調査用紙を作成した。ひとつは、「調査I-T-41」「調査I-T-42」「調査I-T-43」から成り、他方は、「調査I-T-44」「調査I-T-45」から成るものである。*

* 「41」** から「43」までは、それぞれの項目に対して、「多くの先生たちが、このような陳述について同感すると思うかどうか」ということを、5段階に評定してもらうことにより、面接調査で得られたことが、一般的なことがらかどうかを検討しようとするものである。このような間接的な質問にしたのは、問題にとりあげたことがらの性質から考えて、回答を得やすくしようと考えたからである。「41」においては、「教師をやめない理由」という観点から、教師職のもつ魅力や教師が教師職にひきつけられている点、さらに、教師職にとどまっている理由などがどういふことであるかを知ろうとした。それに対して、「43」では、「教師の指導意欲（やる気）を減退させる理由」という観点から、教師という職業について、その職業のもつ条件のうちで、ひじょうにいやだと感じていることがどういふことであるかを知

* 調査用紙は本文の後に掲載した。

** 以下「調査I-T-41」を「41」とあらわす。他の調査も同じである。

教師の教職観に関する研究

うとした。「42」においては、もっと一般的、直接的な形で、「教師職の特長」として質問することにした。このように、3つの面において、質問することにしたのは、それぞれの陳述がもつニュアンスの違いから考えて、教師職の特徴を教師がどのようにみているかをはっきりさせるのに有効ではないかと考えたからである。

「44」においては、教師の行動についての項目に対して、「男の先生に多くみられることがらか、女の先生に多くみられることがらか」についての5段階評定をもらい、「45」においては、「44」と同じ様な項目に対して、「若い先生に多くみられることがらか、中年の先生に多くみられることがらか」についての5段階評定を求めた。

「44」「45」の調査では、教師の行動が男女や年齢によってどのように異なっているかを調べようとするものではない。男教師と女教師、若い教師と中年の教師のそれぞれの行動に対して、どのようなイメージを描いているかを質問することによって、教師観をみることができるから、それを通じて、教師の教職観を吟味することが可能であろうと考えて作成したものである。

このように、いろいろな質問形式をとったが、教師の教職観をとらえ、教師職の特徴を探っていこうとするねらいは同じである。

本調査に用いた項目は、面接調査で得られた現場教師の陳述をもとにして作られたものである。表現上、多少手を加えたものもあり、一部分ではあるが、教師の陳述をまとめて表わしたものもある。

調査の性質上、無記名としたが、分類集計の必要から勤務校（差支えある場合は無記入でも可とした）、性別、年齢、経験年数、学歴についての記入を求めた。

2) 調査の実施

調査対象；名古屋市内の小学校、14校の教師。ただし、校長と校長補佐は、原則として除いた。調査用紙の配布数は、Table II-1、Table II-2 のなかにしめしてある。

調査校の選定は、調査の依頼上のことも含めて、便宜的なものである。^{*} 今回は、名古屋市内のみであったが、郡部で実施した面接調査をもとにしたので、郡部の小学校についても調査を実施して、大都会の場合と比較検討したいと予定している。

調査時期；昭和39年6月下旬

実施要領；「41」「42」「43」と「44」「45」とは別々の学校に配布した。あらかじめ封筒に入れた調査用紙を

持参して各学校を訪ね、校長または校長補佐に、各教師への調査用紙の配布および回収を依頼した。回収にあたっては封をしてもらうことにした。したがって、われわれが回答者に直接面会して調査を依頼する機会をもたなかった。各教師へは、調査の主旨の説明と依頼とをかなり詳しく述べた「調査I-Tへのお願い」^{**}を調査用紙に添えた。

回収結果；「41」「42」「43」についてはTable II-1「44」「45」についてはTable II-2 にしめたとおりである。実質回収率は、有効な回答数を配布数で割ったものである。白紙・不備としたものは、まったくの白紙基礎事項の無記入、無回答が著しく多いもの、回答のすべてが、「どちらともいえない」「どちらとも同じぐらい」であるもの、などである。学校によって回収率にかなり差があるのは、間接的な依頼に対する受け取り方の差異によるのかもしれない。また、調査の種類によっても、異なるようである。これは、回答のしやすさに関係しているものと考えられる。

Table II-1 調査I-T41, 42, 43 回収成績

調査校	配布数	回収数	回収したもののうち				実質回収率
			白紙不備	男	女	計	
A	31	31	4	13	14	27	.871
B	28	27	9	9	9	18	.643
C	21	21	2	9	10	19	.905
D	38	35	4	13	18	31	.816
E	38	34	2	13	19	32	.842
F	40	40	4	18	18	36	.900
G	19	15	6	7	2	9	.474
計	215	203	31	82	90	172	.800

Table II-2 調査I-T44, 45 回収成績

調査校	配布数	回収数	回収したもののうち				実質回収率
			白紙不備	男	女	計	
H	34	31	11	8	12	20	.588
I	18	16	10	3	3	6	.333
J	47	47*	5	15	23	38	.792*
K	23	16	9	2	5	7	.304
L	38	38	14	12	12	24	.632
M	30	27	9	10	8	18	.667
N	48	44	19	14	11	25	.521
計	239	215	77	64	74	138	.577

* 調査校の選定にあたって塩田助教授の労を煩わした。

** 本文の終りに添付した。

* このうち4名は集計の時期に間にあわなかったので回収率の計算から除いた。

Ⅲ 結果の概要

ここでは、それぞれの調査用紙にしたがって、一次集計をした結果について概観することにしてしよう。

1) 「41」「42」「43」の結果について

各調査について平均と標準偏差とを求めた* この場合には、平均値が大きいと、「多くの先生たちは同感するだろう」と評定されたことになり、3.00が「どちらともいえない」、それより小さな数値になると、「多くの先生たちは同感しないだろう」と評定されたことになる。無応答は項目ごとに除いて計算した。男女別、経験年数（10年未満、10年以上、20年以上の3段階）別、および全体集計について、それぞれの調査の結果をまとめたものが、TableⅢ-1、TableⅢ-2、TableⅢ-3、である。

ここで、平均値が3.50以上の項目は、いちおう「多くの先生たちが同感するだろう」と評定された項目であるとみなしてよいと考えて、全体の平均値で3.50以上の数値を太字でしめした。男女差、経験年数による差については、TableⅢ-1の註に述べたとおりである。

2) 「44」「45」の結果について

「41」「42」「43」の場合と同様に、それぞれの調査について、平均と標準偏差とを求めた。

「44」の場合には、平均値が3.00よりも小さいと「男の先生」、大きいと「女の先生」に多くみられると評定されたことになり、「45」の場合には、小さい数値が、「若い先生」、大きい数値が「中年の先生」に、それぞれ多くみられると評定されたことを意味する。

各調査の全体集計、年令別、性別、経験年数別集計の結果はTableⅢ-4、および、TableⅢ-5にしめすとおりである。「45」における年令別とは、35才未満と35才以上に分けたもので、その合計の人数が全体の人数より少ないのは、年令無記入の場合を除いたからである。

「44」について平均値が2.50未満の項目は、女の教師よりも男の教師に多くみられる特徴、3.50以上の項目は男の教師よりも女の教師に多くみられる特徴と評定されたものとすれば、全体の平均値で、男教師に多くみられる特徴として評定された項目は、9、13、21、23、25、27、37、の各項目であり、女教師のそれとして評定された項目は、7、16、30、34、の各項目である。

「45」についても同様にして、全体の平均値をみると若い教師に多くみられる特徴として10、13、21の各項目があげられ、中年教師のそれとしては、1、2、3、4

9、11、17、28、33、36、の各項目があげられる。

「44」において男女別にみていくと、回答者の男女ともに男教師に多くみられる特徴として評定している項目は13と37の2項目のみであり、男女ともに女教師に多くみられる特徴として評定している項目は1つもない。

「45」において35才未満の教師、35才以上の教師が、ともに若い教師に多くみられる特徴として評定している項目は、10、13の2項目であり、ともに中年教師に多くみられる特徴として評定している項目は、1、2、3、9、36、の5項目である。

「44」の経験年数別、年令別、「45」の経験年数別、男女別、それぞれにはあまり差がみられなかった。

以上が一次集計の結果の概要についてみてきたのであるが、「41」「42」「43」では、標準偏差が大きく、回答が散らばっている項目が多く、「44」「45」では、標準偏差はいくぶん小さくなっているが、「どちらも同じぐらい」に近い平均値の項目が多かった。

Ⅳ 結果の考察

1) 回答態度について

「44」「45」の項目は、概して奇数番号が教師をよくみていることがらで、偶数番号は教師をあまりよくみていないことがらである。「44」を男女別について「45」を年令別について、平均値を図示するとFig.1となる。これをみると、「44」の場合には、男教師の回答、女教師の回答がともに同性のほうを異性よりよくみている傾向をしめしているようである。この傾向は、男教師のほうははっきりしており、女教師のほうは、3.00に近い平均値の項目が多い、ということがみられる。

同じように、「45」の場合には、若い教師は若い教師を、中年の教師は中年の教師をよくみている傾向がみられるのである。この場合には、男教師と女教師の場合ほどはっきりしていないようである。

この調査では、回答が3.00の近くに集まっている項目が多いために、このような傾向もわずかな差であることは認めなければならないが、それにしても、教師の教職観のひとつのあらわれとして問題になることである。これは、同性の教師や、年令の近い教師に比較的あまく、異性の教師や、年令のちがう教師に対してきびしいということを反映しているとみることができる。端的にいえば、自分の属する集団と、自分の属していない集団との区別があって、それぞれの評価が、ある項目については、かなりまちまちであることをしめしている。

これに対して、「41」「42」「43」において目立つのは、標準偏差が大きいことである。すなわち、同じ項目

* 木村助手の協力を得て、本学総合計算室の電子計算機を利用した。

教師の教職観に関する研究

Table III-1 調査 I-T41. 「教師をやめられない理由」の平均値

項目番号	項 目	全 体 N=172	
		平 均	σ
1	担任しているクラスの子どもたちから頼りにされていると思うと動けない。	3.47	1.01
2	教師の仕事は魅力のあるものではないが、重要だとわかってきた。	3.75	0.93
3	子どもという生きた対象を相手にしているといつまでも若々しい気持ちでいられる。	4.04	0.90
4	いまさら、教師以外の仕事にたずさわることはできそうもない。	3.71	1.20
5	できない子が、少しでもできるようになった時の喜びは何にもかえ難いものだ。	4.39	0.75
6	欲をいわなければ、ひとなみに生活できるし、恩給もある。	3.37	1.13
7	次の世代を荷う若者のなかに自分が生きていく、と思うとやりがいがある。	3.91	0.91
8	家族や親戚に教師をやっている者がいると、自分だけ勝手にやめられなくなる。	1.83	0.94
9	教師は大きな失敗でもしない限り、停年までくびになることはない。	2.89	1.21
10	教育の仕事は金銭や損得を離れて打ちこまなくてはならない。	3.57	1.15
11	学校の先生だと、世間の人が親切にしてくれるので住み心地がよい。	2.29	0.95
12	教え子が卒業してからいつまでも覚えていてくれるのが、ほんとうにうれしい。	4.09	0.93
13	なんとなく教師を志望してなったのだから、惰性で続けているにすぎない。	2.38	1.04
14	自分のやり方次第でかなり手を抜いても大丈夫だからわりに楽だ。	1.81	0.92
15	せっかく、この世界に根をおろしたのだから、いまやめるのは惜しい。	3.34	1.10
16	他のサラリーマンの仕事にくらべると、自分の力を発揮できる余地が多い。	3.60	1.04
17	先輩や同僚からあたたかく慰められたり励まされたりして奮起する。	3.22	1.02
18	教育の効果は目にみえて現われるものではないから、短気をおこしてはいけない。	4.18	0.94
19	子どもたちの卒業後の発展、活躍を考えると教師職の魅力はすてがたい。	4.04	0.88
20	子どもの純真な姿を見ていると、世間の裏など気にせずに真実を追求できる。	3.81	1.07

- 註 1) 「全体」の太字は平均値3.50以上をしめす。数値が大きいことは、「同感するだろう」と評定されたこと
 2) 男、女の平均値の太字は、5%以下(1%以下も含む)の有意な男女差のあるものの数値の大きいほうを
 3) 経験年数別の平均値の太字は、3つの段階の組み合わせのうち、いずれかに有意の差のあるものの数値の
 4) 経験年数別分類集計の際に経験年数無記入の回答(2名)は除いてある。

Table III-2 調査 I-T42. 「教師職の特長」の平均値

項目番号	項 目	全 体 N=172	
		平 均	σ
1	ほかの世界にくらべて、人間味を失わないでできる。	3.99	0.99
2	世事にうとくなり、世間からとり残されてしまう。	3.31	1.08
3	専門職とはいえ、その技術は昔ながらで近代化されていない。	3.21	1.17
4	自分の仕事が教え子のなかにあとあとまで残る楽しみがある。	3.85	0.89
5	金銭などにむとん着でないといけない。	3.49	1.13
6	学校で習った知識よりも、経験がものを言う仕事だ。	3.76	0.90
7	日々の仕事に切れ目がなく、職場と家庭との区切りがつかない。	3.95	1.06
8	あまりひとに頭をさげなくても済む。	2.79	1.01
9	生活の手段としては割りがあわないが、世間体のいい職業だ。	2.86	1.05
10	人間観、世界観などをしっかりもっていないと、自信をもってできない。	4.15	0.78
11	努力しても、その効果をすぐにつかむことができないじれったさがある。	3.82	0.95
12	知識の上でも、行動の上でも手本にされることが多いので、うっかりできない。	4.19	0.87
13	つきあう相手は、たいいてい教師仲間や父兄で、交際範囲がせまい。	3.98	1.08

共 同 研 究

男 N=82		女 N=90		10 年 未 満 N=57		10 年 以 上 N=81		20 年 以 上 N=32	
平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ
3.54	1.03	3.40	1.00	3.47	1.03	3.41	1.03	3.59	0.96
3.71	0.96	3.80	0.89	3.69	0.91	3.82	0.87	3.69	1.04
3.88	1.01	4.18	0.77	3.83	0.99	4.14	0.84	4.13	0.82
3.52	1.23	3.88	1.13	3.49	1.24	3.74	1.16	3.97	1.13
4.39	0.73	4.39	0.77	4.33	0.68	4.39	0.80	4.50	0.75
3.10	1.13	3.61	1.07	3.05	1.15	3.42	1.14	3.78	0.93
4.00	0.83	3.82	0.97	3.95	0.90	3.89	0.92	3.87	0.91
2.01	1.04	1.66	0.79	1.78	0.99	1.87	0.92	1.81	0.91
2.85	1.29	2.92	1.13	2.70	1.18	2.91	1.21	3.16	1.20
3.23	1.19	3.88	1.02	3.16	1.16	3.78	1.08	3.66	1.11
2.26	0.97	2.31	0.93	2.14	0.83	2.36	0.87	2.34	1.08
4.07	0.87	4.10	0.98	3.93	0.93	4.07	0.99	4.38	0.65
2.51	1.06	2.26	1.01	2.44	1.08	2.43	0.99	2.19	1.12
2.08	1.06	1.56	0.69	2.02	1.07	1.67	0.79	1.77	0.87
3.31	1.11	3.36	1.09	3.47	1.11	3.20	1.11	3.44	1.06
3.38	1.03	3.81	1.01	3.58	1.17	3.63	0.92	3.54	1.10
3.31	0.95	3.15	1.07	3.26	1.05	3.25	0.97	3.06	1.06
4.12	0.90	4.24	0.98	4.11	0.82	4.27	0.97	4.09	1.07
4.10	0.78	3.99	0.97	4.11	0.86	4.01	0.89	3.97	0.92
3.73	1.07	3.88	1.06	3.61	1.09	3.95	0.99	3.75	1.17

をしめす。

しめす。

大きいほうをしめす。

男 N=82		女 N=90		10 年 未 満 N=57		10 年 以 上 N=81		20 年 以 上 N=32	
平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ
3.99	0.93	4.00	1.04	4.09	0.97	3.96	0.96	3.91	1.10
3.33	1.05	3.30	1.11	3.14	1.16	3.26	1.00	3.78	1.02
3.31	1.16	3.10	1.18	3.47	1.28	3.02	1.09	3.25	1.12
3.96	0.78	3.74	0.98	3.95	0.81	3.68	0.88	4.06	1.00
3.29	1.13	3.67	1.11	3.14	1.08	3.68	1.12	3.69	1.07
3.72	0.90	3.79	0.89	3.84	0.97	3.75	0.88	3.59	0.74
3.95	1.08	3.96	1.03	3.88	1.09	3.98	1.03	4.03	1.05
2.70	1.03	2.89	0.97	2.63	0.92	2.81	1.00	3.06	1.12
2.82	1.09	2.91	1.01	2.59	0.98	2.90	1.06	3.19	1.03
4.22	0.79	4.09	0.76	4.25	0.76	4.05	0.83	4.28	0.62
3.80	0.91	3.84	0.98	4.02	0.83	3.69	1.02	3.88	0.85
4.01	0.96	4.35	0.75	4.16	0.85	4.08	0.93	4.50	0.71
3.95	1.15	4.01	1.02	3.97	1.18	3.84	1.08	4.38	0.78

教師の教職観に関する研究

14	給料が安くても、休みには自分のやりたいことができる。	2.98	1.06
15	長年やっていけば、教養も深くなり、人格もみがかれる。	3.17	0.92
16	世間の荒波から守られた無風地帯だ。	2.55	1.04
17	表向きは尊敬されているが、かげでは軽べつされている職業だ。	3.35	1.06
18	落ちついて読書したり研修したりできるようなゆとりはない。	4.08	1.09
19	成長する子どもが相手だから、いつまでたっても飽きがこない。	3.87	0.90
20	やり方次第で、手をぬくことも、仕事をかかえこむことも自由にできる。	3.08	1.24

註 1) 太字の意味は、Table III-1 に同じ。

Table III-3 調査 I-T43. 「やる気を減退させる理由」

項目番号	項 目	全 体 N=172	
		平 均	σ
1	個人の方ではどうにもならない政治的経済的な壁にぶかってゆきづまる。	3.98	1.01
2	雑用ばかりに追われて、気になりながらも子どもと接触できない。	4.16	0.97
3	いつまでたっても平教員で教頭や校長になれないからつまらない。	2.58	1.04
4	教え子が上級学校へ進学するほど、離れていってしまうので淋しい。	2.78	1.03
5	やっと地域の状況をつかめたと思う頃には転任になってがっかりする。	2.96	1.09
6	教育的な信念や愛情などと言ってきたことに自信を失った。	2.69	1.04
7	職員室の空気が沈滞していて、のびのびと息ができない。	2.59	1.14
8	マナーリズムにおちいって、子どもたちに負目を感じる。	2.60	1.08
9	学閥によって排他的な関係があって面白い。	3.12	1.11
10	自分の思っていることが、子どもにうまく通じないのがなげない。	2.74	1.13
11	テストの成績など、他のクラスや学級と比較されるのがたまらない。	2.46	1.07
12	研究授業をやっても、お互いに自由に発言できないのでやる気がしない。	2.37	1.06
13	子どもが授業のペースにのってこないで、はりあいが無い。	2.45	1.07
14	父兄の顔色をうかがわなければならないのが馬鹿らしい。	2.52	1.16
15	学級王国というが、互に牽制しあっていて、腹をわって話ができない。	2.64	1.10
16	世間のひとに教師の苦労がわかってもらえない。	3.77	1.13
17	教師の努力よりも、生活環境からくる影響が大きいので、気力がなくなる。	3.49	1.09
18	私生活まで監視されるので、なんとなく生活が固苦しい。	3.39	1.14
19	地域の要求と自分の教育理想との板ばさみになってやりきれない。	3.13	1.06
20	何か新しいことをやると、同僚や上司から意地悪くされてつらい。	2.53	0.98

註 1) 太字の意味は、Table III-1 に同じ。

に対しての回答が、ばらついているのである。まったくでたらめに回答したものではないとすれば、教師によって、回答態度に何らかのちがいがあられるように思われる。それは、われわれが調査の依頼に各学校を訪ねたときの印象や、各学校の回収率のちがいなどからも考えられることである。

そこで、「43」において、「43.6, 教育的信念や愛情などと言ってきたことに自信を失った」「43.8, マナーリズムにおちいって子どもたちに負目を感じる」の2項目ともに、「同感するだろう(5, 4)」に○をつけた

者全員(男10名女9名計19名)と、「同感しないだろう(2, 1)」に○をつけた者全員(男25名女32名計57名)とをとりだして、それぞれの平均値を求めた。これを全体の平均値とともに図示したのが、Fig. 2 である。この図をみると、この2つのグループが、全体の平均値をはさんで両側にわかれていることが、「43」においてみられる。「41」「42」においては、「41.19, 41.20, 42.4」などの教え子への魅力に関係しているような項目で逆になっているほかは、全体の平均値に近いが、または、「43」と同じような傾向である。

共 同 研 究

2.76	1.15	3.19	0.92	2.84	1.04	3.01	0.97	3.13	1.24
3.07	0.93	3.26	0.89	2.89	0.86	3.17	0.89	3.63	0.93
2.46	1.11	2.46	0.97	2.29	1.06	2.53	0.97	3.03	1.05
3.56	1.03	3.16	1.05	3.40	1.09	3.28	1.05	3.44	1.06
4.04	1.11	4.12	1.07	4.18	1.05	3.96	1.16	4.22	0.93
3.70	0.81	4.02	0.95	3.70	0.92	3.92	0.81	4.03	1.05
3.15	1.30	3.02	1.17	3.16	1.31	3.03	1.22	3.13	1.14

男 N=82		女 N=90		10年未満 N=57		10年以上 N=81		20年以上 N=32	
平均	σ	平均	σ	平均	σ	平均	σ	平均	σ
4.06	0.92	3.91	1.09	3.86	1.02	4.04	0.99	4.10	1.06
4.27	0.86	4.04	1.06	4.39	0.87	4.04	0.92	4.13	1.06
2.79	1.00	2.37	1.04	2.62	0.94	2.49	0.95	2.74	1.34
2.84	1.04	2.72	1.02	2.93	1.02	2.80	0.95	2.50	1.20
2.94	1.04	2.99	1.14	2.71	0.99	3.21	1.07	2.74	1.14
2.66	1.00	2.71	1.08	2.75	1.02	2.64	0.99	2.69	1.21
2.62	1.09	2.57	1.19	2.75	1.26	2.58	1.05	2.41	1.11
2.63	0.99	2.58	1.16	2.76	1.16	2.53	1.06	2.50	1.00
3.20	1.14	3.05	1.08	3.28	1.17	3.05	1.02	3.03	1.21
2.82	1.08	2.67	1.17	2.95	1.05	2.64	1.10	2.66	1.31
2.28	0.93	2.62	1.17	2.68	1.06	2.40	1.03	2.22	1.14
2.23	1.05	2.49	1.05	2.61	1.17	2.25	0.94	2.22	1.08
2.49	1.05	2.42	1.09	2.60	1.01	2.28	1.04	2.56	1.19
2.38	1.12	2.64	1.19	2.63	1.10	2.54	1.09	2.72	1.38
2.56	1.12	2.71	1.08	2.89	1.13	2.54	0.97	2.50	1.25
3.83	1.15	3.72	1.11	3.97	1.08	3.80	1.12	3.38	1.17
3.51	0.99	3.47	1.17	3.64	0.97	3.57	1.04	3.00	1.25
3.32	1.14	3.26	1.14	3.40	1.15	3.15	1.09	3.38	1.22
3.23	0.99	3.04	1.10	3.32	1.02	2.99	1.01	3.19	1.21
2.35	0.86	2.69	1.06	2.63	1.00	2.55	0.89	2.34	1.11

「43」の場合には、全体で、「同感するだろう」と肯定された項目が少なかったのであるが、ここにみられるように、個々の項目をこえて、全体的に、「同感しないだろう」という方向に偏るような回答態度による回答が含まれていることが、影響しているように思われる。

同様な手続きで、「41」の「41.9、教師は大きな失敗でもしない限り、停年までクビになることはない。」と「41.15、せっかくこの世界に根をおろしたのだから、いまやめるのは惜しい。」の2項目ともに、「同感するだろう」と答えた者全員（男14名女17名計31名）と、

「同感しないだろう」と答えた者全員（男10名女13名計23名）をとって、その平均値をそれぞれ求めた。それを図示したのが、Fig.3である。ここでも、Fig.2と同様な傾向をしめしているようである。また、項目によって、異なることもみられる。

このような例から、教師の回答態度が、かならずしも同じではないということが推量できる。それがどのようなものであるかについては、さらに分析を進める必要がある。このことは、教師職のある面については、教師によるみ方のちがいが、かなりあるということをしめして

教師の教職観に関する研究

Table III-4 調査I-T44.の平均値

番号	項目	全体 N=138		性 男 N=64	
		平均	σ	平均	σ
		1	指導の技術がすぐれている。	2.65	0.77
2	型にはまった指導しかしない。	3.48	0.70	3.70	0.63
3	指導の経験を大切にす。	3.25	0.80	3.13	0.83
4	指導に真剣味がない。	3.22	0.70	3.44	0.65
5	指導の週案・日案などを必ず作る。	3.35	0.71	3.38	0.68
6	特定の子どもをえこひいきする。	3.47	0.88	4.00	0.62
7	テストの答案や宿題などをよく見てやる。	3.67	0.76	3.33	0.66
8	教材や指導法の準備をあまりやらない。	3.12	0.70	3.34	0.77
9	子どもの成長を長い目で見る。	2.38	0.82	2.02	0.74
10	自分の好きな教材だけに力を入れる。	2.69	0.79	2.89	0.84
11	しつけがきびしい。	3.49	0.94	3.20	1.02
12	子どもに自習ばかりさせる。	2.94	0.69	3.26	0.63
13	子どもの遊び相手になってやる。	2.36	0.77	2.39	0.80
14	仕事はその場限りでなげやりである。	2.92	0.67	3.17	0.67
15	子どもをよくほめる。	3.07	0.68	3.03	0.78
16	校務に対し消極的である。	3.66	0.84	3.98	0.79
17	学級経営など地味なくふうをする。	3.24	0.90	2.87	0.86
18	教育に対する熱意・意欲がたりない。	3.36	0.60	3.59	0.61
19	勤務時間と余暇時間をはっきり区別する。	2.97	1.04	3.02	1.16
20	学級王国を作りたがる。	3.14	1.03	3.58	0.90
21	職員室に明かるい雰囲気をかもし出す。	2.49	0.96	2.03	0.81
22	上司や同僚に対して不満が多い。	3.22	0.79	3.41	0.82
23	自己研修や教養のためによく努力する。	2.44	0.63	2.19	0.63
24	職員仲間で排他的なグループをつくる。	3.42	0.82	3.57	0.85
25	研究授業や校内研究会に積極的である。	2.36	0.65	2.11	0.66
26	政治や経済の問題に無関心である。	3.72	0.82	3.67	0.98
27	教育的信念や教育理想をもっている。	2.44	0.76	2.17	0.88
28	毎日の教育活動を惰性的にやっている。	3.28	0.65	3.50	0.69
29	教育の効果を過小に評価する。	3.18	0.58	3.22	0.64
30	ほかのクラスと比較されるのを好まない。	3.57	0.79	3.77	0.86
31	充実した個人生活(家庭生活)を営んでいる。	3.15	0.61	3.10	0.56
32	世間の人から監視されている。	3.18	0.49	3.23	0.50
33	人間味のある豊かな個性をもっている。	2.56	0.64	2.28	0.62
34	自分だけの殻に閉じこもっている。	3.58	0.76	3.73	0.71
35	世間の人から好意的に受け入れられている。	2.72	0.59	2.65	0.67
36	教職を生活の手段と考えている。	2.82	0.99	3.03	1.08
37	父兄の目を気にかけない。	2.44	0.66	2.38	0.74
38	異性の先生の態度や行為を善意に解釈する。	2.79	0.62	2.56	0.63
39	現実的打算的な考え方をする。	3.06	0.79	3.43	0.71
40	地域の人や父兄たちと親しくつき合う。	3.03	0.75	3.03	0.79

註 平均値が小さいほうが「男の先生」大きいほうが「女の先生」である。

共 同 研 究

別		經 驗 年 數						年 令			
女 N=74		10 年 未 滿 N=41		10 年 以 上 N=62		20 年 以 上 N=32		35 才 未 滿 N=80		35 才 以 上 N=57	
平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ
2.96	0.65	2.61	0.62	2.53	0.86	2.88	0.74	2.63	0.75	2.67	0.80
3.28	0.70	3.44	0.70	3.53	0.72	3.43	0.67	3.46	0.76	3.51	0.60
3.35	0.75	3.08	0.82	3.35	0.70	3.29	0.92	3.17	0.76	3.36	0.84
3.02	0.69	3.36	0.62	3.20	0.69	3.07	0.79	3.30	0.61	3.10	0.80
3.32	0.73	3.37	0.84	3.38	0.61	3.31	0.73	3.39	0.76	3.30	0.62
2.95	0.77	3.49	0.86	3.52	0.88	3.33	0.91	3.47	0.90	3.46	0.85
3.97	0.70	3.59	0.66	3.75	0.82	3.59	0.70	3.65	0.73	3.70	0.79
2.93	0.57	3.08	0.57	3.12	0.77	3.23	0.72	3.05	0.69	3.22	0.71
2.70	0.75	2.34	0.95	2.38	0.75	2.37	0.78	2.34	0.87	2.42	0.75
2.52	0.70	2.83	0.76	2.67	0.77	2.59	0.86	2.76	0.82	2.60	0.75
3.74	0.79	3.56	0.94	3.48	0.96	3.41	0.93	3.50	0.89	3.47	1.01
2.64	0.60	3.11	0.75	2.77	0.69	3.07	0.53	2.94	0.73	2.94	0.65
2.33	0.75	2.05	0.71	2.53	0.78	2.29	0.63	2.33	0.81	2.39	0.72
2.68	0.59	3.00	0.72	2.88	0.63	2.93	0.70	2.93	0.67	2.90	0.69
3.10	0.57	3.02	0.75	3.10	0.67	3.06	0.56	3.09	0.68	3.02	0.66
3.38	0.77	3.76	0.79	3.57	0.90	3.71	0.77	3.71	0.84	3.60	0.82
3.56	0.81	3.10	0.89	3.28	0.93	3.34	0.85	3.23	0.88	3.25	0.94
3.14	0.49	3.41	0.54	3.29	0.61	3.45	0.62	3.32	0.55	3.42	0.66
2.93	0.92	3.07	1.23	2.92	0.85	2.97	1.06	2.98	1.11	2.98	0.93
2.75	0.98	3.17	1.03	3.26	1.05	2.94	0.88	3.15	1.03	3.15	1.03
2.88	0.90	2.12	0.86	2.55	0.96	2.78	0.96	2.36	0.93	2.65	0.98
3.06	0.72	3.18	0.70	3.21	0.85	3.32	0.78	3.10	0.70	3.39	0.88
2.66	0.53	2.37	0.62	2.40	0.63	2.56	0.61	2.34	0.61	2.58	0.62
3.29	0.77	3.49	0.82	3.41	0.82	3.41	0.83	3.49	0.80	3.35	0.85
2.57	0.55	2.34	0.65	2.44	0.64	2.22	0.65	2.41	0.67	3.28	0.61
3.77	0.64	3.64	0.95	3.77	0.80	3.74	0.67	3.72	0.88	3.73	0.72
2.66	0.55	2.44	0.86	2.45	0.73	2.38	0.70	2.46	0.82	2.39	0.67
3.06	0.53	3.25	0.60	3.32	0.66	3.26	0.67	3.30	0.61	3.26	0.70
3.15	0.51	3.11	0.51	3.17	0.55	3.24	0.68	3.12	0.50	3.27	0.65
3.41	0.68	3.39	0.82	3.66	0.80	3.66	0.69	3.51	0.81	3.67	0.76
3.19	0.66	3.12	0.77	3.18	0.52	3.13	0.56	3.13	0.68	3.18	0.51
3.13	0.48	3.16	0.49	3.19	0.48	3.19	0.53	3.18	0.51	3.17	0.47
2.82	0.54	2.50	0.59	2.53	0.64	2.71	0.68	2.51	0.62	2.63	0.67
3.44	0.77	3.51	0.75	3.63	0.82	3.59	0.66	3.51	0.16	3.68	0.75
2.78	0.51	2.68	0.61	2.71	0.55	2.80	0.65	2.70	0.61	2.75	0.58
2.62	0.85	2.73	0.97	2.71	1.01	3.07	0.91	2.82	0.99	2.80	0.99
2.49	0.58	2.34	0.57	2.38	0.63	2.63	0.78	2.33	0.61	2.59	0.70
3.00	0.54	2.78	0.56	2.82	0.67	2.74	0.62	2.87	0.58	2.67	0.67
2.74	0.72	3.23	0.72	2.97	0.78	3.07	0.84	3.13	0.75	2.98	0.83
3.03	0.72	2.88	0.63	3.10	0.78	3.10	0.82	3.04	0.72	3.04	0.80

教師の教職観に関する研究

Table III-5 調査 I-T45の平均値

番号	項目	全 体 N=138		年 令 35才未満 N=80	
		平均	σ	平均	σ
		1	指導の技術がすぐれている。	3.87	0.82
2	型にはまった指導しかしない。	3.83	0.78	3.99	0.73
3	指導の経験を大切にす。	3.71	0.86	3.66	0.87
4	指導に真剣味がない。	3.53	0.85	3.72	0.89
5	指導の週案・日案などを必ず作る。	3.04	0.66	3.03	0.66
6	特定の子どもをえこひいきする。	2.72	0.84	2.83	0.85
7	テストの答案や宿題などをよく見てやる。	2.73	0.90	2.58	0.88
8	教材や指導法の準備をあまりやらない。	3.39	0.81	3.46	0.87
9	子どもの成長を長い目でみる。	3.74	0.87	3.60	0.83
10	自分の好きな教科だけに力を入れる。	2.43	0.80	2.49	0.80
11	しつけがきびしい。	3.64	1.01	3.70	1.02
12	子どもに自習ばかりさせる。	3.26	0.80	3.40	0.82
13	子どもの遊び相手になってやる。	1.76	0.72	1.65	0.69
14	仕事はその場限りでなげやりである。	2.60	0.67	2.73	0.56
15	子どもをよくほめる。	3.41	0.87	3.26	0.93
16	校務に対して消極的である。	2.82	0.86	2.97	0.88
17	学級経営などに地味なくふうをする。	3.54	0.78	3.38	0.75
18	教育に対する熱意・意欲がたりない。	3.38	0.91	3.56	0.86
19	勤務時間と余暇時間をはっきり区別する。	3.02	1.11	3.11	1.09
20	学級王国を作りたがる。	2.50	0.89	2.50	0.90
21	職員室に明かるい雰囲気をかもし出す。	2.45	1.08	2.24	1.04
22	上司や同僚に対して不満が多い。	2.84	0.93	2.98	0.89
23	自己研修や教養のためによく努力する。	2.55	0.81	2.35	0.71
24	職員仲間で排他的なグループを作る。	2.99	0.83	3.07	0.78
25	研究授業や校内研究会に積極的である。	2.67	0.81	2.53	0.71
26	政治や経済の問題に無関心である。	3.00	0.78	3.10	0.77
27	教育的信念や教育理想をもっている。	2.84	0.91	2.66	0.81
28	毎日の教育活動を惰性的にやっている。	3.60	0.65	3.69	0.64
29	教育の評価を過小に評価する。	3.02	0.70	3.16	0.71
30	ほかのクラスと比較されるのを好まない。	3.02	0.79	3.09	0.81
31	充実した個人生活(家庭生活)を営んでいる。	3.44	0.77	3.43	0.75
32	世間の人から監視されている。	2.94	0.72	3.06	0.72
33	人間味のあるゆたかな個性をもっている。	3.54	0.78	3.43	0.77
34	自分だけの殻に閉じこもっている。	3.02	0.87	3.08	0.78
35	世間の人から好意的に受け入れられている。	3.12	0.76	2.95	0.78
36	教職を生活の手段と考えている。	3.66	0.88	3.71	0.79
37	父兄の目を気にかけない。	2.74	0.97	2.73	1.04
38	年齢が離れた先生の態度や行為を善意に解釈する。	3.17	0.76	3.05	0.70
39	現実的・打算的な考え方をす。	2.81	0.97	2.91	0.96
40	地域の人や父兄たちと親しくつき合う。	3.42	0.70	3.33	0.67

註) 平均値が小さいほうが「若い先生」、大きいほうが「中年の先生」である。

共 同 研 究

別		経 験 年 数						性 別			
35 才 以 上 N=57		10 年 未 満 N=41		10 年 以 上 N=62		20 年 以 上 N=32		男 N=64		女 N=74	
平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ	平 均	σ
3.84	0.93	3.93	0.69	3.97	0.78	3.63	0.93	3.72	0.82	4.00	0.79
3.64	0.77	4.18	0.75	3.66	0.65	3.81	0.81	3.91	0.75	3.76	0.80
3.79	0.85	3.65	0.94	3.74	0.86	3.72	0.76	3.73	0.89	3.69	0.84
3.28	0.74	3.87	0.99	3.49	0.68	3.29	0.81	3.59	0.86	3.48	0.84
3.05	0.66	2.90	0.66	3.05	0.53	3.16	0.83	3.10	0.68	2.99	0.63
2.57	0.81	2.95	0.89	2.62	0.80	2.63	0.84	2.82	0.80	2.63	0.87
2.95	0.89	2.54	0.77	2.68	0.95	3.00	0.83	2.72	0.72	2.74	1.03
3.29	0.70	3.46	0.83	3.39	0.86	3.34	0.64	3.32	0.83	3.44	0.78
3.93	0.90	3.42	0.86	3.98	0.75	3.66	0.96	3.55	0.90	3.91	0.81
2.35	0.81	2.58	0.77	2.34	0.81	2.41	0.82	2.59	0.84	2.29	0.74
3.56	1.01	3.66	0.98	3.69	1.03	3.50	1.03	3.63	0.94	3.65	1.07
3.08	0.75	3.52	0.79	3.23	0.82	3.03	0.71	3.17	0.71	3.34	0.87
1.91	0.74	1.46	0.63	1.77	0.69	2.00	0.66	1.89	0.79	1.64	0.63
2.44	0.76	2.83	0.51	2.56	0.68	2.42	0.75	2.71	0.55	2.50	0.75
3.61	0.74	3.22	1.00	3.50	0.89	3.47	0.61	3.44	0.81	3.39	0.93
2.60	0.79	3.08	0.93	2.78	0.76	2.53	0.87	2.76	0.81	2.86	0.90
3.75	0.78	3.12	0.74	3.76	0.69	3.66	0.78	3.36	0.80	3.69	0.74
3.09	0.92	3.69	0.88	3.44	0.88	2.97	0.86	3.33	0.86	3.42	0.95
2.86	1.13	3.18	1.20	3.00	1.03	2.81	1.13	2.84	1.20	3.16	1.01
2.47	0.89	2.71	0.82	2.33	0.93	2.48	0.84	2.56	0.91	2.44	0.88
2.74	1.09	2.10	0.96	2.52	1.06	2.72	1.18	2.47	1.15	2.43	1.03
2.66	0.96	3.23	0.88	2.69	0.91	2.67	0.91	2.80	0.90	2.89	0.94
2.84	0.86	2.37	0.69	2.53	0.82	2.81	0.86	2.56	0.81	2.54	0.81
2.88	0.88	3.13	0.73	3.04	0.82	2.75	0.91	3.00	0.83	2.98	0.82
2.88	0.90	2.51	0.70	2.66	0.84	2.86	0.82	2.72	0.82	2.64	0.80
2.87	0.76	3.18	0.79	2.88	0.75	3.00	0.76	2.98	0.75	3.02	0.80
3.09	0.98	2.66	0.82	2.79	0.93	3.09	0.91	3.06	0.96	2.65	0.81
3.49	0.66	3.78	0.58	3.59	0.72	3.45	0.56	3.50	0.56	3.70	0.72
2.85	0.66	3.21	0.69	2.92	0.73	2.93	0.64	2.98	0.76	3.07	0.64
2.91	0.76	3.24	0.79	2.93	0.79	2.91	0.77	2.95	0.84	3.07	0.74
3.46	0.80	3.39	0.77	3.47	0.81	3.41	0.66	3.53	0.80	3.36	0.73
2.78	0.69	3.11	0.73	2.98	0.61	2.68	0.82	3.02	0.70	2.87	0.73
3.70	0.77	3.28	0.77	3.71	0.77	3.53	0.75	3.63	0.76	3.47	0.80
2.95	0.98	3.16	0.59	3.00	0.92	2.94	1.06	2.98	0.85	3.06	0.90
3.35	0.67	2.68	0.83	3.31	0.69	3.26	0.57	3.06	0.85	3.17	0.65
3.55	0.98	3.74	0.74	3.78	0.90	3.28	0.91	3.56	0.94	3.75	0.82
2.75	0.88	2.54	1.03	2.89	1.01	2.63	0.74	2.64	0.99	2.83	0.95
3.33	0.82	2.93	0.71	3.28	0.76	3.22	0.78	3.23	0.73	3.12	0.79
2.67	0.98	3.10	0.94	2.72	1.01	2.63	0.89	2.70	0.93	2.90	1.00
3.54	0.73	3.27	0.70	3.46	0.67	3.53	0.75	3.41	0.66	3.42	0.74

教師の教職観に関する研究

Fig. 1

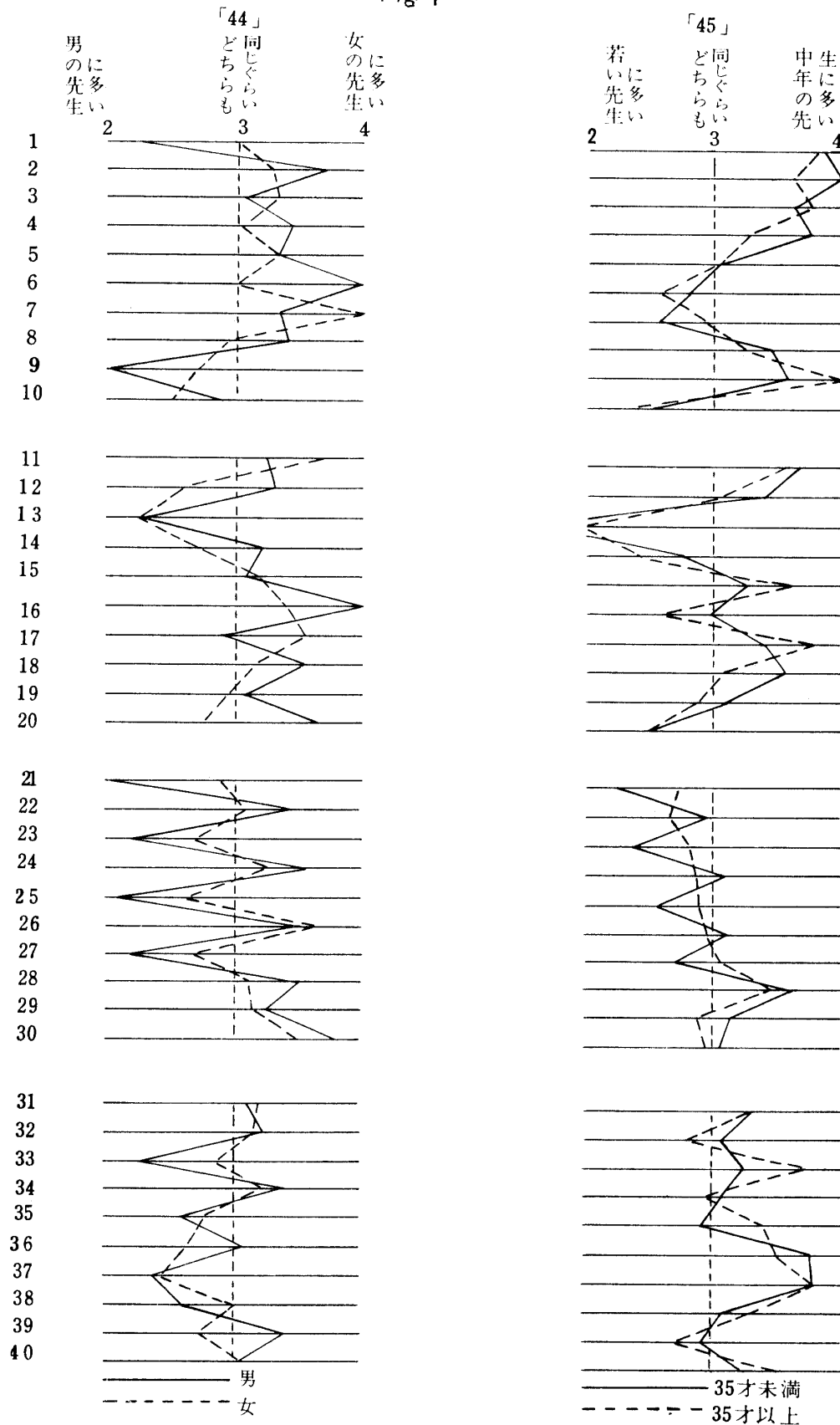
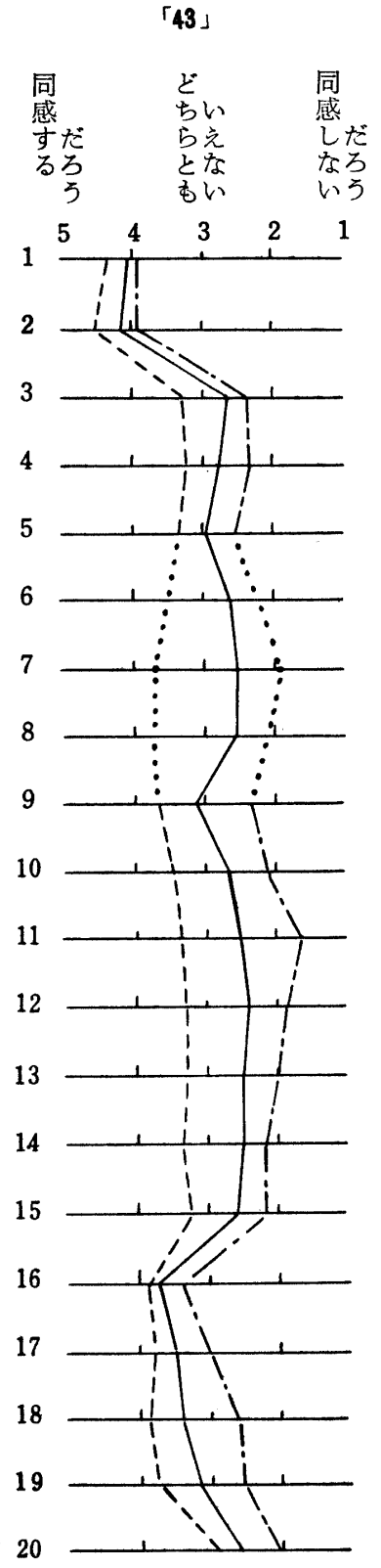
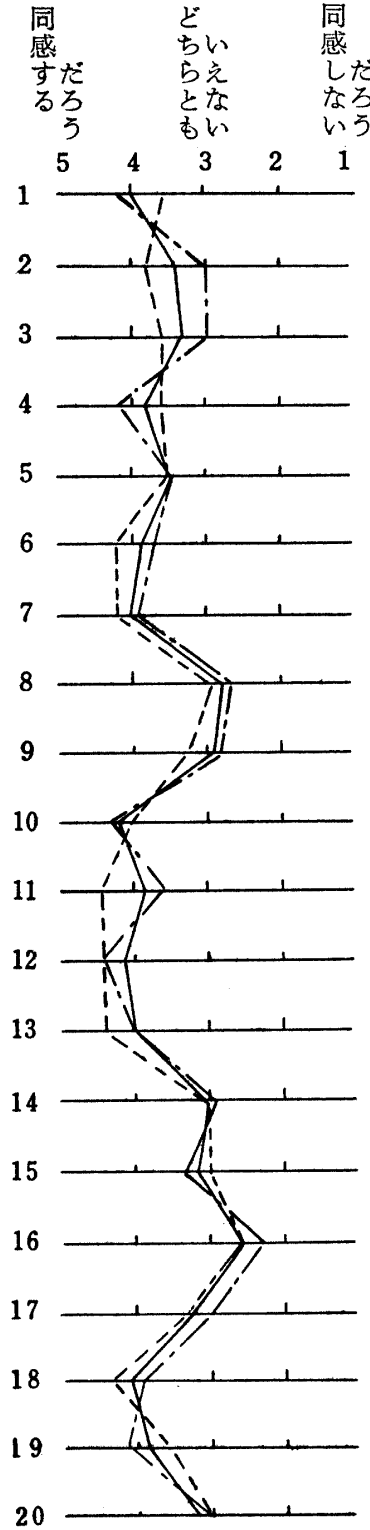
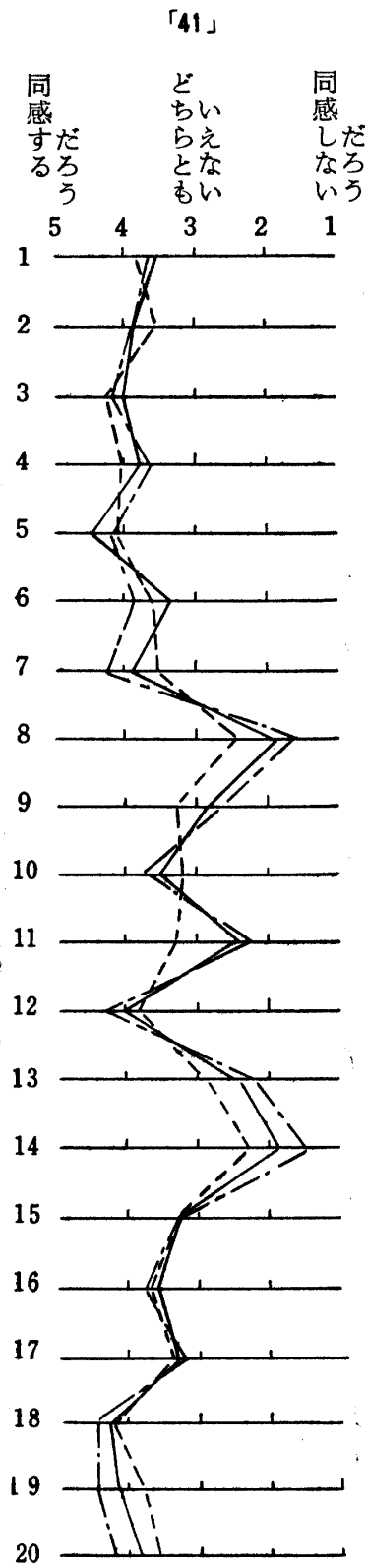
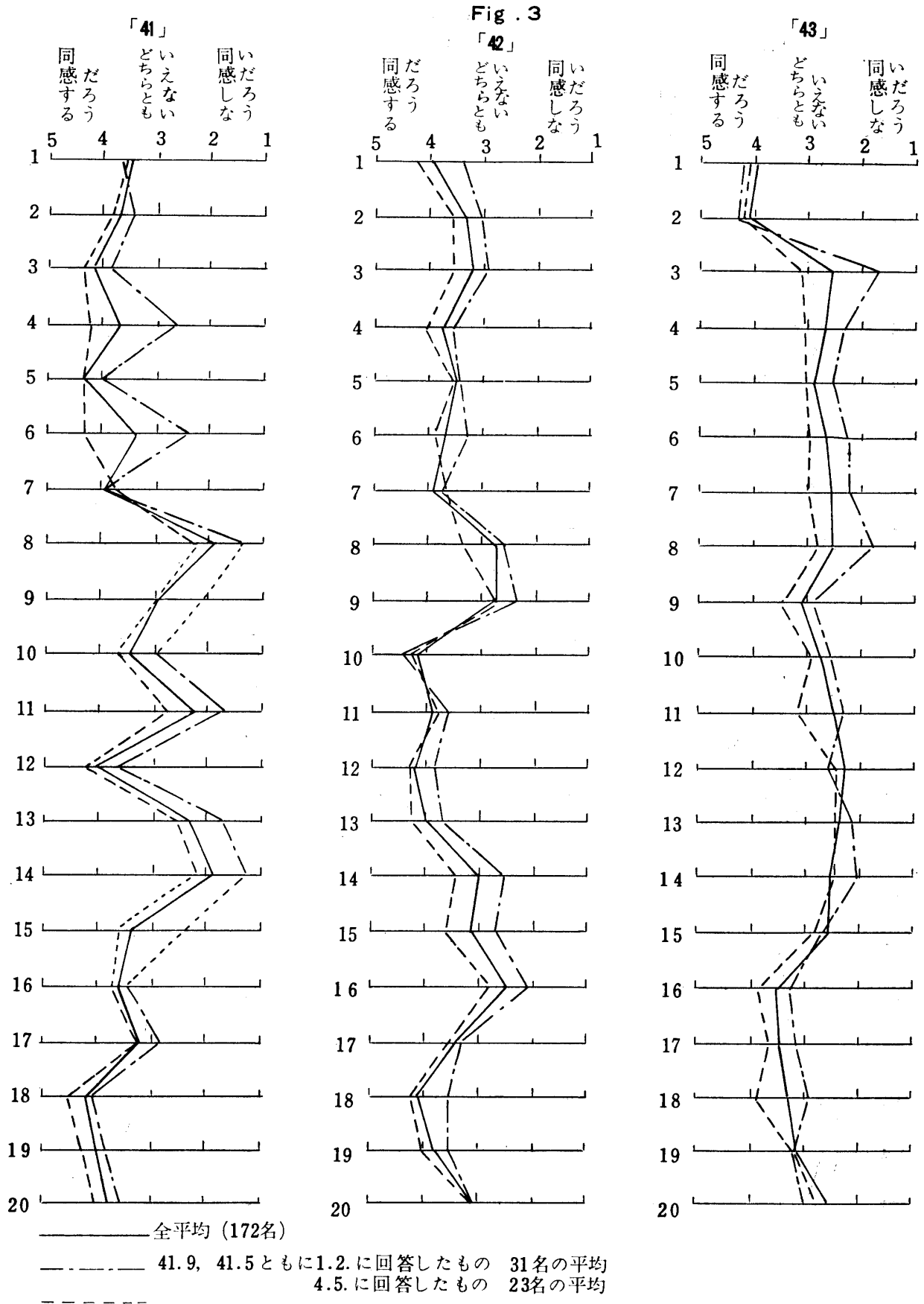


Fig. 2
「42」



_____ 全平均 (172名)
 - - - - - 43-6. 43-8. ともに1.2.に回答したもの 57名の平均
 4.5.に回答したもの 19名の平均

教師の教職観に関する研究



いると思われる。しかし、別の考え方をすれば、教師職のある面については同じように見ているのだが、このような調査に対する回答態度にちがいがあつたために、回答がわかれてくるのではないかと考えられるのである。

2) 面接調査結果との関連

われわれは、回答態度にかなり興味ある傾向があらわれていることをみてきたのであるが、ここでは、面接調査の結果から考えられる教師の教職観と、この調査の結果とをつきあわせて考察してみよう。そのために、できるだけ各調査形式の枠をはずして、面接調査記録の分類にしたがって個々の項目を検討することにした。各調査形式の枠をはずすことは、「41」の7と「42」の4、「41」の10と「42」の5、のように、同じような項目は、ほぼ同じ結果をしめしていることから、それほど無理なことではない。^{*}

以下、順を追って考察していくのであるが、「41」、「42」「43」については、「多くの先生たちが同感するだろう」と評定された項目（平均値が3.50以上）を中心にみていくことにした。「44」「45」については、「男の先生に多くみられる」または、「女の先生に多くみられる」と評定された項目（平均値が2.50以下、または、3.50以上）、および、「若い先生に多くみられる」または、「中年の先生に多くみられる」と評定された項目（平均値が2.50以下、または、3.50以上）を中心に考察することにした。「44」「45」では、あることがら、男教師に多くみられるか、女教師に多くみられるか、あるいは、若い教師に多くみられるか、中年教師に多くみられるかをきめようとする意図はない。したがって、多くの男教師の評定に、「……」が女教師に多くみられる、という結果がでて、多くの女教師がそうであろうとは考えないのである。また、「男教師に多くみられる」という場合には、女教師にくらべてということが、「若い教師に多くみられる」という場合には、中年の教師にくらべてということが含まれている。逆も同様であるが、ここで問題にしているのは、相対的にどちらに多くみられるかということなのである。

A 教師職に就いた動機とその後の変化

今回の調査では、就職の動機に関する項目はないが、経験を積むことは、「42.6**学校で習った知識よりも、経験がものをいう仕事だ(3.76)***。」と認めている。そして、わずかではあるが、経験年数の少ない教師のほうが、経験がものを言うことを強く感じているような傾

向が、うかがわれる。そして「45.3、指導の経験を大切に(3.71)。」のは若い教師と比較して中年教師に多いとされている。

〔A031*、年をとると子どもと一緒に体を動かさなくなる〕と述べられていたが、「45.13、子どもの遊び相手になってやる(1.76)」とみられているのは、若い教師である。

「41.3、教師の仕事は魅力あるものではないが、重要な仕事だとわかってきた(3.75)」は10年以上の経験をもった教師の平均値が4.14、20年以上のそれが4.13となっている点、〔A034〕を裏づけている。

B 指導意欲と教育技術

「41.14、自分のやり方次第ではかなり手を抜いても大丈夫だから楽だ(1.81)」は、特に女教師(男2.05、女1.56)から強く否定されている。しかし、「44.18、教育に対する熱意、意欲がたりない」のは、男教師の回答では(3.59)女教師に多いとされているし、若い教師の回答では(3.56)中年の教師に多いとみられている。「45.4、指導に真剣味がない」も、若い教師の回答では(3.72)中年の教師に多いとされている。このことは、〔B040〕で述べられたように、意欲の発現のし方が違うという意見とあわせて考えると興味深い。

「45.1、指導の技術がすぐれている(3.87)」、「45.2、型にはまった指導しかしない(3.83)」は、ともに中年の教師に多いとされている。すぐれた技術はある型をもっているということであるのかもしれない。しかし「45.2」については、男教師が(3.70)男教師よりも女教師に多い、とみていることなどから考えると、技術はすぐれているが固定化している、とみられていることになるのであろう。

C 指導態度について

教育的信念などについては、あまりはっきりしたものが得られなかったのであるが、「44.27、教育的信念や教育理想をもっている(2.44)」のは、男教師に多いとみられている。

指導態度については、このほかにも「44」や「45」の項目にあるが、ここでは、面接調査と直接的に関連づけられるものだけにとどめておくことにする。

D 教え子について

「41.12、教え子が卒業してからいつまでも覚えていてくれるのが、ほんとうにうれしい(4.09)」「41.19、子どもたちの卒業後の発展、活躍を考えると教師職の魅力はすてがたい(4.04)」「42.4、自分の仕事が教え子

* 分類は面接調査の場合と同じである。

** 「42」の項目6を表わす。以下同じ。

*** 全体の平均値をしめす。

* 面接調査での整理番号をしめす。以下〔 〕で囲んである意見または番号は面接調査のものである。

のなかにあとあとまで残る楽しみがある(3.85)」「41.7, 次の世代を荷う若者のなかに自分が生きていく、と思うとやりがいがある(3.91)」など、卒業生とのつながりに、よろこびや生きがいを感じる、という項目については、強く同感されている。

「43.2, 雑用ばかりに追われて、気になりながらも子どもと接触できない(4.16)」「41.20, 子どもの純真な姿を見ていると、世間の裏など気にせず真実を追求できる(3.81)」という項目においては、これを認めているのに対して、「43.8, マンネリズムにおちいって子どもたちに負目を感じる(2.60)」「43.10, 自分の思っていることが、子どもにうまく通じないのがなさけない(2.74)」「43.13, 子どもが授業のペースにのってこないのが、はりあいが無い(2.45)」といった項目については、平均値が低い。

面接調査において述べられた、教え子の魅力については、強く肯定されているのであるが、上に述べたような項目では、みとめられなかったのはなぜか、項目の表現を含めて検討すべきことがらのように思われる。

E 教員仲間や職員室の問題

面接調査においては、具体的なことがらまでは述べられなかったし、「外に知られたくないことがらがある」といわれたように、こうした質問紙では扱いにくい問題領域のようである。そのためか、平均値の低いのが、目立った。

職員間の調和や協力が強調されたのであるが〔E114 E115〕、「43.7, 職員室の空気が沈滞していて、のびのびと息ができない(2.59)」は、平均値は低い、標準偏差は大きい(女1.19, 全体1.14)ので、いろいろなみ方があるように思われる。

ひとのクラスのことを気にしながらも〔E117, E118〕〔E120, 職員間で腹を割って話すことはあまりしない〕という意見があったのであるが、「43.15, 学級王国というが、互に牽制しあって腹を割って話ができない(2.64)」「43.11, テストの成績など、他のクラスや学校と比較されるのがたまらない(2.46)」などの項目は、平均値が低い。しかし、「44.24, 職員仲間では排他的なグループを作る」のは、女教師に多くみられると男教師がみている(3.57)のであるし、「44.30, ほかの先生と比較されるのを好まない」のも、同様に女教師に多くみられると男教師がみている(3.77)のである。このようなことがらや、標準偏差が大きいことなどをあわせて考えると、面接調査で述べられていることが、一般的には考えられていないことがらである、というわけにはいかないであろう。

学閥についてのみにくさをほのめかした意見〔E132, E133〕も出されたのであるが、「43.9, 学閥によって排他的関係があって面白くない(3.12)」は、「どちらともいえない」平均値である。そして、標準偏差が大きい(男1.14全体1.11)ことは回答者がさまざまな立場にいることのあらわれではないかと思われる。

F 父兄や地域社会との関係

父兄の目が気になる〔F145, F146〕という意見があったが、「43.14, 父兄の顔をうかがわなければならないのが馬鹿らしい(2.52)」は低い平均値であるが散らばりが大きい。「44.37, 父兄の目を気にかけない、(2.44)」のは、女教師よりも男教師に多いとみられている。「42.12, 知識の上でも、行動の上でも手本にされることが多いのでうっかりできない(4.19)」は強く肯定されている。これらのことから、父兄の目に気がつかっているということは、認められているようである。

「42.13, つきあう相手は、たいていの教師仲間や父兄で、交際範囲がせまい(3.98)」ということは認められているが、「45.40, 地域の人々や父兄たちと親しくつきあう」のは、中年教師の回答では(3.54)中年教師に多いとされている。

「43.1, 個人の方ではどうにもならない政治的経済的な壁にぶつかってゆきづまる(3.98)」ということは、わずかではあるが、経験年数によって上昇(3.86, 4.04, 4.10)しているのに対して、「43.17, 教師の努力よりも生活環境からくる影響力が大きいので、気力がなくなる(3.49)」ということは、経験年数が増すと、逆に下降(3.64, 3.57, 3.00)している。これは、経験年数を重ねると、問題を感じても、無気力にならずに処理できるようになってくるからではなかろうか。

「43.16, 世間のひとに教師の苦労がわかってももらえない(3.77)」と思っているのは、経験年数10年未満(3.97)や10年以上(3.80)であり、20年以上の教師は、それほど思っていない(3.38)こともみられた。

以上、父兄や地域社会との関係は、経験年数を重ねるにしたがって、密接になっていくとともに、うまく処理できるようになってくるものであると考えられる。

G 教師および教師職の特徴

「42.2, 世事にうとくなり、世間からとり残されてしまう(3.31)」ように感じるのは、20年以上の教師である(3.78)ことは、教師経験を経るにしたがって世間から離れていくように感じられていることをしめす。

「41.3, 子どもという生きた対象を相手にしているといつまでも若々しい気持ちでいられる(4.04)」「42.19, 成長する子どもが相手だから、いつまでたっても飽きが

こない(3.87)」「42.1,ほかの世界にくらべて,人間味を失わないですむ(3.99)」「41.10,教師の仕事は金銭を離れて打ちこまなくてはならない(3.57)」などは,いずれも,こうした感じをもっていると評定されたものである。「42.5,金銭にむとん着でないと出来ない(3.49)」は「41.10」と同様に,経験年数10年以上(3.68)20年以上(3.69)で強く感じられている。

「42.7,日々の仕事に切れ目がなく,職場と家庭との区切りがつかない(3.95)」「42.11,努力してもその効果をすぐにつかむことができないじれったさがある(3.82)」「41.18,教育の効果は目にみえて現われるものではないから,短気をおこしてはいけない(4.18)」など,教師職のもつ一面をよくあらわすことがらについては,面接調査の陳述が,そのまま確かめられた。「45.9,子どもの成長を長い目でみる(3.74)」のは,中年教師に多くみられるとされており,男教師と女教師の比較では,男教師に多くみられる(2.38)とされている。

H 教師の人間形成および研修

面接調査において,教師がみずからの人間を磨くことの必要を感じていても,実際には,あまりしていないらしい〔H210, H211〕ことがうかがわれたのであるが,今回の調査でも,「42.10,人間観,世界観などをしっかりもっていないと,自信をもってできない(4.15)」ということ強く認めているながら,「42.18,落ちついて読書したり研修したりできるようなゆとりはない(4.08)」ということも認めているのである。そして,「44.33,人間味のある豊かな個性をもっている」ということは,男教師は男教師に多いとみており(2.28),中年教師は中年教師に多いとみている(3.70)のである。また,「44.34,自分の殻のなかにとじこもっている(3.58)」のは女教師に多くみられるとされている。これらのことを,つないで考えてみると,教師の人間形成について想像できるようである。そして,「42.15,長年やれば,教養も深くなり,人格もみがかれる」ということを,経験年数が多くなるにしたがって(2.89, 3.17, 3.63)認めるようになってくる。

研修については,あまり実のあることをやっていないようであるという意見〔H215, H219〕もあったが,「43.12,研究授業をやっても,お互いに自由に発言できないので,やる気がしない(2.37)」ということ,むしろ否定されている。しかし,「44.25,研究授業や校内研究会に積極的である(2.36)」「44.23,自己研修や教養のためによく努力する(2.44)」などは,いずれも男教師に多いとみなされているし,「44.34」の場合などを考えあわせると,女教師にとっては,不利な教師

像が描かれているように思われる。

I 個人生活・家庭生活の問題

「41.4,いまさら教師以外の仕事にたずさわることはできそうもない(3.71)」ということのなかには,教師職が,どこにでもつぶしのきくようなものではない専門的な職業であるという意味も含まれているが,同感されているようである。こうした構えは,経験を増すにつれてはっきりしてくる(3.49, 3.74, 3.97)といえるであろう。

「41.6,欲をいわなければ,ひとなみに生活できるし恩給もある」では女教師のほうが平均値が高く(男3.10女3.61),経験年数では上昇している(3.05, 3.42, 3.78)。また,「42.9,生活の手段としては割があわないが世間体のいい職業である」についても経験年数が増すにつれて上昇(2.59, 2.90, 3.19)していることがみられる。そして,「45.36,教職を生活の手段と考えている(3.66)」のは,中年教師に多いとみられているのである。面接調査で,教師職から離れられないのは,経済的な安定ということもある〔I227〕と述べられていたが,ここにおいても,そのことが,ある程度,みられるのではなからうか。

V 反省と今後の問題

われわれは,面接調査で得られた資料をもとに,教師の教職観について質問紙による調査研究を行ってきた。その結果,面接調査から考えられる教師の教職観のかなりの面が裏づけされ,さらに検討が加えられた。教師職のいろいろな面や教師の行動について,現場教師がどのようなみ方をしているか,ということに関して,興味ある結果が得られたのである。そこから,教師の教職観について考察してきたのであるが,しかし,まだ検討すべきことがらも残されているので,その問題点をあげてみよう。

1) 調査の実施にあたって,校長や校長補佐を通じて間接的に配布や回収をしたのであるが,郵送調査や,直接に教師に面会して実施することも試みられてよい方法であると思われる。それらを比較することは,回収率を検討する手がかりになることと思われる。

2) 回答態度については,興味ある結果がみられたのであるが,さらに,各項目が,教師を好意的にみていることがらか,非好意的にみていることがらかについて,現場教師からの評定などで確かめておく必要があるように思われる。

3) 教師の教職観にいろいろな差異がみられるが,それを手がかりに,教師を類型化して,現場の教育活動に

教師の教職観に関する研究

のように関係しているかについて検討することなども、今後に残された問題であろう。

4) 教師の教職観は、その当事者が現在たずさわっている自分の職業をみたものであるといえる。そのことから教師職の特質を反映していると思われる結果が得られたのであるが、現場教師の問題を熟知していて、しかも自分の職業としてではなく、外側から教師職をみた場合と比

較してみるのが、教師の教職観を浮彫りにするために必要ではないかと考えられる。

付記；われわれの研究のために、御協力くださった学校や先生がたに、心からの感謝を捧げます。現場の先生がたの御協力がなければ、われわれの研究が進展しないことを思い厚く御礼申し上げます。

調査 I — T へのお願い

私どもの教室では、一昨年来、指導者養成の問題に取り組み、教育現場の教師ならびに産業現場の監督・指導者についての研究を集めてまいりましたが、私どもは、この共同研究のなかで、普通学級の先生がたの問題を担当してきました。

研究の第一年度には、教師と生徒との関係という問題を手がけましたが、研究を進めてみましたところ、現場の先生がたの生活の実情を知ることが研究の第一歩であると痛感し、昨年度は、逆に、一步後退して、地味な研究を試みました。すなわち、愛知県および岐阜県下の小学校5校の先生がたと、集団的あるいは個別的に、できるだけ長い時間にわたって、膝をまじえて親しく懇談いたしました。

ある時は放課後暗くなるまでの時間、ある時は夕方から午前0時を過ぎるまで、先生がたに迷惑をかけることと知りながらも、話し合ってみただけであります。その録音テープは20巻を越え、その筆記は集計用紙数百枚に及びました。

私どものこの試みは、現場の先生がたの多方面にわたる生活に関するなまの声を知り、単に子供の指導の問題にとどまらず、生活の問題を深く掘りさげ、問題の所在を把握するために有益であったと考えております。しかし、それにして、その時に懇談してくださった先生がたの数はかならずしも多数であったとはいえ、統計的な意味で一般的傾向をつかむところまでは行っておりません。

今回作りしましたこの調査票は、上記の研究で得られた材料から作ったものですが、これらの先生がたの言葉が、話された先生についてだけの特殊なことがらなのか、広く一般の先生がたにみられる共通のことがらなのか、を確かめたいわけです。したがって、前回の研究に心から協力してくださった先生がたと同様に、現場の本当の姿・先生がたのありのままの姿をお教えいただきたいと存じます。

この調査のご回答は、研究以外の目的で使うことや、先生がたのプライバシーを犯すような使い方をすることはありません。なにとぞ、私どもの研究の意図をお汲みとりくださって、心からのご協力をお寄せくださいますようお願いいたします。

1964年6月

名古屋大学教育心理学教室

普通学級研究班

(責任者) 助教授 村 瀬 隆 二
 助手 岩 井 勇 児

共 同 研 究

調 査 I — T — 41

名古屋大学教育心理学教室

はじめに次のわくのなかの記入をお願いします。

勤務校		男女別	男・女	教師経 験年数	年	月	他の職業 の経 験	有・無	学歴	
-----	--	-----	-----	------------	---	---	-----------------	-----	----	--

先生がたのなかには「教師をやめたいと思ったこともあるが、やはりやめられなかった」とか「教師をやめたいと思っているがやめられないものだ」というようなことをいわれる先生がおられました。そういう先生がたに話していただいた、やめられない理由の主なものを列挙したのが、次の(1)から(20)までの各項目です。

現場教育にたずさわってみて、教師職に疑問を感じたり悩んだりする時期、あるいは、教師としての自分の生活の姿を反省してみる機会といったものは、たいいてい先生がおもちではないかと思えます。

この調査では、現場の多くの先生がたが一般に、次の各項目のようなことがらに、教師をやめることにふみきれない理由として、同感すると思うか、同感しないと思うのかを、お答えいただきたいのです。

多くの先生たちは
やめられない理由として

ま す た く 同 感	お す ら く 同 感	ど ち ら と も い え な い	お し な い だ ら 同 感	ぜ ん ぜ ん だ ら 同 感
----------------------------	----------------------------	---	--------------------------------------	--------------------------------------

1. 担任しているクラスの子もたちから頼りにされていると思うと動けない。……………	5	4	3	2	1
2. 教師の仕事は魅力のあるものではないが、重要だとわかってきた。……………	5	4	3	2	1
3. 子どもという生きた対象を相手にしているといつまでも若々しい気持でいられる。……………	5	4	3	2	1
4. いまさら、教師以外の仕事にたずさわることはできそうもない。……………	5	4	3	2	1
5. できない子が、少しでもできるようになった時の喜びは何にもかえ難いものだ。……………	5	4	3	2	1
6. 欲をいわなければ、ひとなみに生活できるし、恩給もある。……………	5	4	3	2	1
7. 次の世代を荷う若者のなかに自分が生きていく、と思うとやりがいがある。……………	5	4	3	2	1
8. 家族や親戚に教師をやっている者がいると、自分だけ勝手にやめられなくなる。……………	5	4	3	2	1
9. 教師は大きな失敗でもしない限り、停年まではクビになることはない。……………	5	4	3	2	1
10. 教育の仕事は、金銭や損得を離れて打ちこまなくてはならない。……………	5	4	3	2	1
11. 学校の先生だと、世間の人親切にしてくれるので住み心地がよい。……………	5	4	3	2	1
12. 教え子が卒業してからいつまでも覚えていてくれるのが、ほんとうにうれしい。……………	5	4	3	2	1
13. なんとなく教師を志望してなったのだから、惰性で続けているにすぎない。……………	5	4	3	2	1
14. 自分のやり方次第でかなり手を抜いても大丈夫だからわりに楽だ。……………	5	4	3	2	1
15. せっかく、この世界に根をおろしたのだから、いまやめるのは惜しい。……………	5	4	3	2	1
16. 他のサラリーマンの仕事にくらべると、自分の力を発揮できる余地が多い。……………	5	4	3	2	1
17. 先輩や同僚からあたたかく慰められたり、励まされたりして奮起する。……………	5	4	3	2	1
18. 教育の効果は目に見えて現われるものではないから、短気をおこしてはいけない。……………	5	4	3	2	1
19. 子どもたちの卒業後の発展、活躍を考えると教師職の魅力はすてがたい。……………	5	4	3	2	1
20. 子どもの純真な姿を見ていると、世間の裏など気にせず真実を追求できる。……………	5	4	3	2	1

教師の教職観に関する研究

調査 I — T — 42

名古屋大学教育心理学教室

私どもの研究の一つとして、教師という職業が、他の職業と比較して、何か独特の「特長」といったものを持っているのではないかということから、現場の先生がた自身が、教師職の特長をどう感じておられるかをうかがいました。前回、先生がたが指摘されたことをまとめてみますと、その主なものは次の(1)から(20)までの各項目のようなことでした。

この調査では、現場の多くの先生たちは、次の各項目のようなことがらに、**教師職の特長**として、同感すると思うか、同感しないと思うかを、お答えいただきたいのです。

多くの先生たちは
教師職の特長として

ま す つ た る く ら い 同 感	お す そ ら だ ら く ら い 同 感	ど ち ら い と え も な い	お し そ ら い く ら い 同 感	ぜ し ん な い だ ら く ら い 同 感
--	---	---	--	--

1. ほかに世界にくらべて、人間味を失わないでできる。……………	5	4	3	2	1
2. 世事にうとくなり、世間からとり残されてしまう。……………	5	4	3	2	1
3. 専門職とはいえ、その技術は昔ながらで近代化されていない。……………	5	4	3	2	1
4. 自分の仕事が教え子のなかにあとあとまで残る楽しみがある。……………	5	4	3	2	1
5. 金銭などにむとん着でないといけない。……………	5	4	3	2	1
<hr/>					
6. 学校で習った知識よりも、経験がものを言う仕事だ。……………	5	4	3	2	1
7. 日々の仕事に切れ目がなく、職場と家庭との区切りがつかない。……………	5	4	3	2	1
8. あまりひとに頭をさげなくても済む。……………	5	4	3	2	1
9. 生活の手段としては割があわないが世間体のいい職業だ。……………	5	4	3	2	1
10. 人間観、世界観などをしっかりもっていないと、自信をもってできない。……………	5	4	3	2	1
<hr/>					
11. 努力しても、その効果をすぐにつかむことができないじれったさがある。……………	5	4	3	2	1
12. 知識の上でも、行動の上でも手本にされることが多いので、うっかりできない。…	5	4	3	2	1
13. つきあう相手は、たいいてい教師仲間や父兄で、交際範囲がせまい。……………	5	4	3	2	1
14. 給料が安くても、休みには自分のやりたいことができる。……………	5	4	3	2	1
15. 長年やっていたら、教養も深くなり、人格もみがかれる。……………	5	4	3	2	1
<hr/>					
16. 世間の荒波から守られた無風地帯だ。……………	5	4	3	2	1
17. 表向きは尊敬されているが、かげでは軽べつされている職業だ。……………	5	4	3	2	1
18. 落ちついて読書したり研修したりできるようなゆとりはない。……………	5	4	3	2	1
19. 成長する子どもが相手だから、いつまでたっても飽きがこない。……………	5	4	3	2	1
20. やり方次第で、手をぬくことも、仕事をかかえこむことも自由にできる。……………	5	4	3	2	1

現場の先生がたとお話をしていると、学校という職場で、教育という仕事にたずさわっている場合に感じられる「いやな面」ということも、だいたい話題になります。下の(1)から(20)までの各項目はそのうちの主なものです。こういうことを口に出していわれる先生は比較的少ないのですが、しかし、実情としては、多少なりともうなずける面をもっているように思います。この調査では、こういう「いやなことがら」のうちでも、とくに、教育活動をささえる指導意欲（やる気）を減退させる原因になっているものをみつきたいのです。現場の多くの先生がたが一般に、次の各項目のようなことがらに、**教師の指導意欲（やる気）を減退させる理由**として、同感すると思うか、同感しないと思うかを、お答えいただきたいのです。

多くの先生たちは
やる気を減退させる理由として

ま す つ る た だ く ろ 同 感	お す そ ら だ く ろ 同 感	ど ち ら い と え な い	お し そ ら い く だ ら 同 感	ぜ し ん な ぜ い だ ら 同 感
--	---	--------------------------------------	--	--

1. 個人の方ではどうにもならない政治的経済的な壁にぶつかってゆきづまる。……………	5	4	3	2	1
2. 雑用ばかりに追われて、気になりながらも子どもと接触できない。……………	5	4	3	2	1
3. いつまでたっても平教員で教頭や校長になれないからつまらない。……………	5	4	3	2	1
4. 教え子が上級学校へ進学するほど、離れていってしまうので淋しい。……………	5	4	3	2	1
5. やっと地域の状況をつかめたと思う頃には転任になってがっかりする。……………	5	4	3	2	1
<hr/>					
6. 教育的な信念や愛情などと言ってきたことに自信を失った。……………	5	4	3	2	1
7. 職員室の空気が沈滞していて、のびのびと息ができない。……………	5	4	3	2	1
8. マンネリズムにおちいって、子どもたちに負目を感じる。……………	5	4	3	2	1
9. 学閥によって排他的な関係があって面白くない。……………	5	4	3	2	1
10. 自分の思っていることが、子どもにうまく通じないのがなさけない。……………	5	4	3	2	1
<hr/>					
11. テストの成績など、他のクラスや学校と比較されるのがたまらない。……………	5	4	3	2	1
12. 研究授業をやっても、お互いに自由に発言できないのでやる気がしない。……………	5	4	3	2	1
13. 子どもが授業のペースにのってこないのが、はりあいが無い。……………	5	4	3	2	1
14. 父兄の顔色をうかがわなければならないのが馬鹿らしい。……………	5	4	3	2	1
15. 学級王国というが、互に牽制しあっていて、腹をわって話ができない。……………	5	4	3	2	1
<hr/>					
16. 世間のひとに教師の苦勞がわかってもらえない。……………	5	4	3	2	1
17. 教師の努力よりも、生活環境からくる影響が大きいので、気力がなくなる。……………	5	4	3	2	1
18. 私生活まで監視されるので、なんとなく生活が固苦しい。……………	5	4	3	2	1
19. 地域の要求と自分の教育理想との板ばさみになってやりきれない。……………	5	4	3	2	1
20. 何か新しいことをやると、同僚や上司から意地悪くされてつらい。……………	5	4	3	2	1

名古屋大学教育心理学教室

この枠のなかの事項は集計整理に必要な項目です。必ずご記入ください。

勤務校	小学校	性別	男	女	満年齢	才
経験年数	年	月	学歴	免許の種類	状態	種類

学校の先生は、「教師タイプ」とか「先生タイプ」などといわれているように、他の職業の人と比較したとき、一般的にみて、教師独特の特長をもっていると思いますが、当の職業に従事している教師自身の立場から見ますと、「教師一般に共通した特長」というのは、意外にわかりにくいと思います。むしろ、男の先生と女の先生とか、若い先生と中年の先生というように、少し区別して考えたほうが、特長のイメージがはつきりするようになります。

この調査票 (I-T-44) では、**男の先生**の平均的な特長と**女の先生**の平均的な特長のちがいを知りたいのです。次は(1)から(40)までの項目が並んでいますが、各項目に書いてあるようなことがらは、**男の先生**のほうにより多くみられるか、**女の先生**のほうにより多くみられるか、をお答えください。

男の先生にも女の先生にも多くみられるとか、男女両方とも同じように少ないという場合には、「どちらも同じぐらい」(数字の3)に○をつけてください。あまり考えるとかえって答えられなくなりますから、あまり考えないで、どしどし答えてください。

なお、この調査で「先生」というのは、小学校に勤務している先生の場合をさすこととします。

教師の教職観に関する研究

そのよりの行動は	男		女	
	1	2	3	4
(1) 指導の技術がすぐれている。……………	1	2	3	4
(2) 型にはまった指導しかしない。……………	1	2	3	4
(3) 指導の経験を大切にす。……………	1	2	3	4
(4) 指導に真剣味がない。……………	1	2	3	4
(5) 指導の遇案・日案などを必ず作る。……………	1	2	3	4
(6) 特定の子どもをえこひいきする。……………	1	2	3	4
(7) テストの答案や宿題などをよく見てやる。……………	1	2	3	4
(8) 教材や指導法の準備をあまみやらない。……………	1	2	3	4
(9) 子どもの成長を長い目で見る。……………	1	2	3	4
(10) 自分の好きな教材だけに力を入れる。……………	1	2	3	4
(11) しつけがきびしい。……………	1	2	3	4
(12) 子どもに自習ばかりさせる。……………	1	2	3	4
(13) 子どもの遊び相手になってやる。……………	1	2	3	4
(14) 仕事はその場限りでなげやりである。……………	1	2	3	4
(15) 子どもをよくほめる。……………	1	2	3	4
(16) 校務に対して消極的である。……………	1	2	3	4
(17) 学級経営などに地味なくふうをする。……………	1	2	3	4
(18) 教育に対する熱意・意欲がたりない。……………	1	2	3	4
(19) 勤務時間と余暇時間をはっきり区別する。……………	1	2	3	4
(20) 学級王国を作りたがる。……………	1	2	3	4

(次のページにつづく)

そのような行動は

男や同女や女断
のやちののの然
先多先らく先多先
生い生いもら生い
にいたにいたに

21	職員室に明るい雰囲気をかもし出す。	1	2	3	4	5
22	上司や同僚に対して不満が多い。	1	2	3	4	5
23	自己研修や教養のためによく努力する。	1	2	3	4	5
24	職員仲間で排他的なグループを作る。	1	2	3	4	5
25	研究授業や校内研究会に積極的である。	1	2	3	4	5
26	政治や経済の問題に無関心である。	1	2	3	4	5
27	教育的信念や教育理想をもっている。	1	2	3	4	5
28	毎日の教育活動を情性的にやっている。	1	2	3	4	5
29	教育の効果を過小に評価する。	1	2	3	4	5
30	ほかのクラスと比較されるのを好まない。	1	2	3	4	5
31	充実した個人生活(家庭生活)を営んでいる。	1	2	3	4	5
32	世間の人から監視されている。	1	2	3	4	5
33	人間味のあるゆたかな個性をもっている。	1	2	3	4	5
34	自分だけの殻に閉じこもっている。	1	2	3	4	5
35	世間の人から好意的に受け入れられている。	1	2	3	4	5
36	教職を生活の手段と考えている。	1	2	3	4	5
37	父兄の目を気にかけない。	1	2	3	4	5
38	異性の先生の態度や行為を善意に解釈する。	1	2	3	4	5
39	現実的、打算的な考え方をする。	1	2	3	4	5
40	地域の人や父兄たちと親しくつき合う。	1	2	3	4	5

この調査票(I-T-45)では、若い先生の平均的な特長と中年の先生の平均的な特長とのちがいを知りたいのです。次に(1)から(40)までの項目が並んでいます。各項目に書いてあるようなことがらは、若い先生のほうにより多くみられるか、中年の先生のほうにより多くみられるか、をお答えください。

(若い先生と中年の先生というのは、暦年齢だけでは区別できませんが、だいたい35才前後を境界として考えることができるとかと思えます。)

調査I-T-44の場合と同様に、若い先生と中年の先生とを比較して、どちらにより多いかということをお答えいただきたいので、若い先生にも中年の先生にも多くみられるとか、両方とも同じように少ないという場合には「どちらも同じぐらい」(数字の3)に○をつけてください。

なお、あまり考えるとかえって答えられなくなりますから、あまり考えないで、どしどし答えてください。

井 岡 研 究

そのような行動は		そのような行動は										
若断 然の 先生 に	若 や 多 い に	ど ち ら か い に	同 年 生 に	中 に 先 生 に	中 に 先 生 に							
(1)	1	2	3	4	5	21	職員室に明るい雰囲気をかもし出す。	1	2	3	4	5
(2)	1	2	3	4	5	22	型にはまった指導しかしない。	1	2	3	4	5
(3)	1	2	3	4	5	23	指導の経験を大切にしない。	1	2	3	4	5
(4)	1	2	3	4	5	24	指導に真剣味がない。	1	2	3	4	5
(5)	1	2	3	4	5	25	指導の週案・日案などを必ず作る。	1	2	3	4	5
(6)	1	2	3	4	5	26	特定の子どもをえこひいきする。	1	2	3	4	5
(7)	1	2	3	4	5	27	テストの答案や宿題などをよく見てやる。	1	2	3	4	5
(8)	1	2	3	4	5	28	教材や指導法の準備をあまりやらない。	1	2	3	4	5
(9)	1	2	3	4	5	29	子どもの成長を長い目で見る。	1	2	3	4	5
(10)	1	2	3	4	5	30	自分の好きな教科だけに力を入れる。	1	2	3	4	5
(11)	1	2	3	4	5	31	しつけがきびしい。	1	2	3	4	5
(12)	1	2	3	4	5	32	子どもに自習ばかりさせる。	1	2	3	4	5
(13)	1	2	3	4	5	33	子どもの遊びが相手になってやる。	1	2	3	4	5
(14)	1	2	3	4	5	34	仕事はその場限りでなげやりである。	1	2	3	4	5
(15)	1	2	3	4	5	35	子どもをよくほめる。	1	2	3	4	5
(16)	1	2	3	4	5	36	校務に対して消極的である。	1	2	3	4	5
(17)	1	2	3	4	5	37	学級経営などに地味なくふうをする。	1	2	3	4	5
(18)	1	2	3	4	5	38	教育に対する熱意・意欲がたりない。	1	2	3	4	5
(19)	1	2	3	4	5	39	勤務時間と余暇時間をはっきり区別する。	1	2	3	4	5
(20)	1	2	3	4	5	40	学級王国を作りたがる。	1	2	3	4	5
						21	職員室に明るい雰囲気をかもし出す。	1	2	3	4	5
						22	上司や同僚に対して不満が多い。	1	2	3	4	5
						23	自己研修や教養のためによく努力する。	1	2	3	4	5
						24	職員仲間で排他的なグループを作る。	1	2	3	4	5
						25	研究授業や校内研究会に積極的である。	1	2	3	4	5
						26	政治や経済の問題に無関心である。	1	2	3	4	5
						27	教育的信念や教育理想をもってやる。	1	2	3	4	5
						28	毎日の教育活動を情性的にやっている。	1	2	3	4	5
						29	教育の評価を過小に評価する。	1	2	3	4	5
						30	ほかのクラスと比較されるのを好まない。	1	2	3	4	5
						31	充実した個人生活(家庭生活)を営んでいる。	1	2	3	4	5
						32	世間の人から監視されている。	1	2	3	4	5
						33	人間味のあるゆたかな個性をもっている。	1	2	3	4	5
						34	自分だけの殻に閉じこもっている。	1	2	3	4	5
						35	世間の人から好意的に受け入れられている。	1	2	3	4	5
						36	教職を生活の手段と考えている。	1	2	3	4	5
						37	父兄の目を気にかけない。	1	2	3	4	5
						38	年令が離れた先生の態度や行為を善意に解釈する。	1	2	3	4	5
						39	現実的・打算的な考え方をする。	1	2	3	4	5
						40	地域の人や父兄たちと親しくつき合う。	1	2	3	4	5